平成 26 年度 矢作川自然再生計画勉強会
資料-3

矢作川自然再生事業

今後の施工計画（案）

１．自然再生事業の実施予定箇所 1

２．施工計画 2

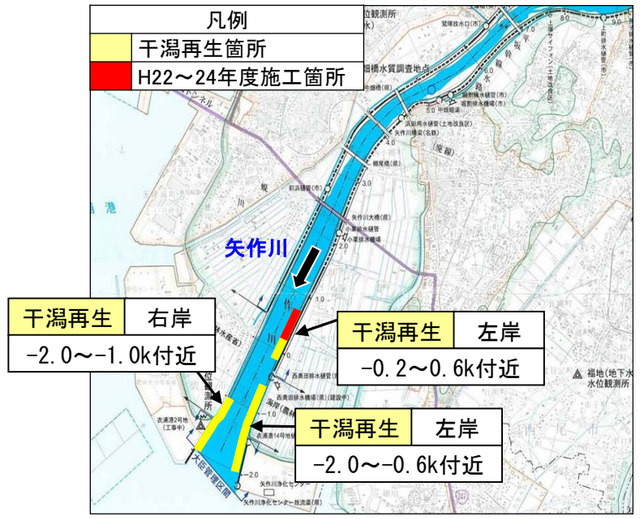
平成 27 年 2 月 18 日

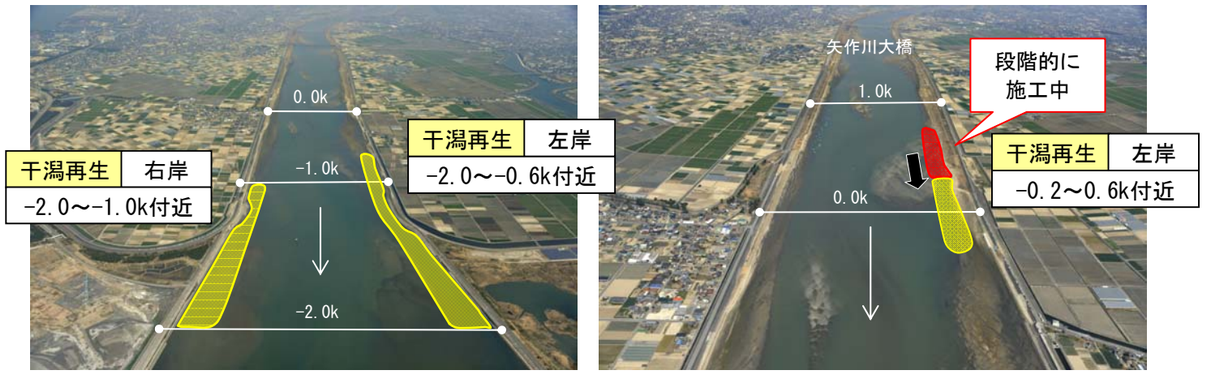
国土交通省 中部地方整備局 豊橋河川事務所

1．自然再生事業の実施予定箇所

(1) 干潟区

- 干潟再生の実施箇所は、下記の３地区である。
- H22 年度より、「-0.2～0.6k 左岸付近」を下流側に向かって段階的に施工を進めている。



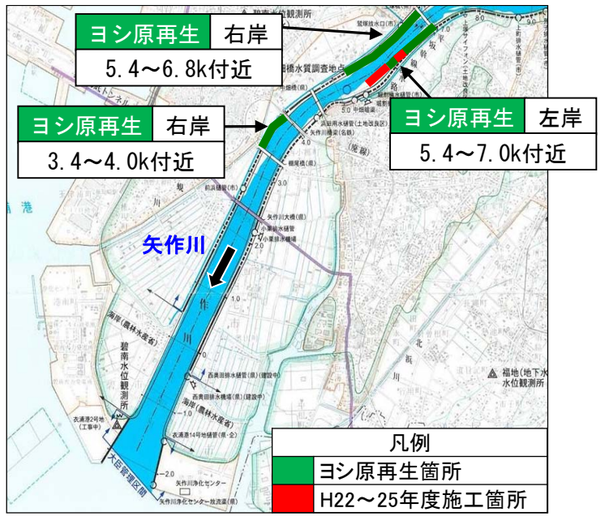


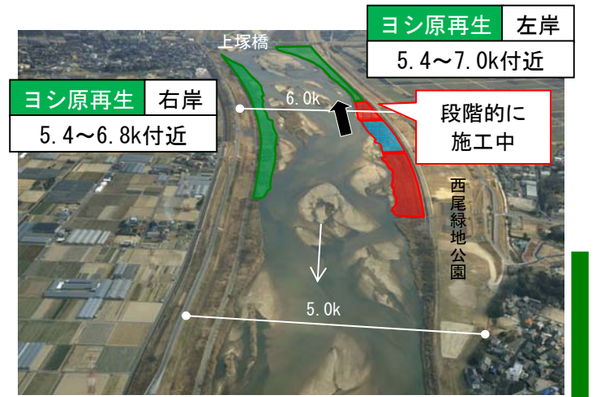
※河口部２地区は、概略箇所を示す（詳細は未定）

図- 干潟再生の事業箇所

(2) ヨシ原区

- ヨシ原再生の実施箇所は、下記の３地区である。
- H22 年度より、「5.4～7.0k 左岸付近」を上流側に向かって段階的に施工を進めている。





：保全区域（良好な環境）

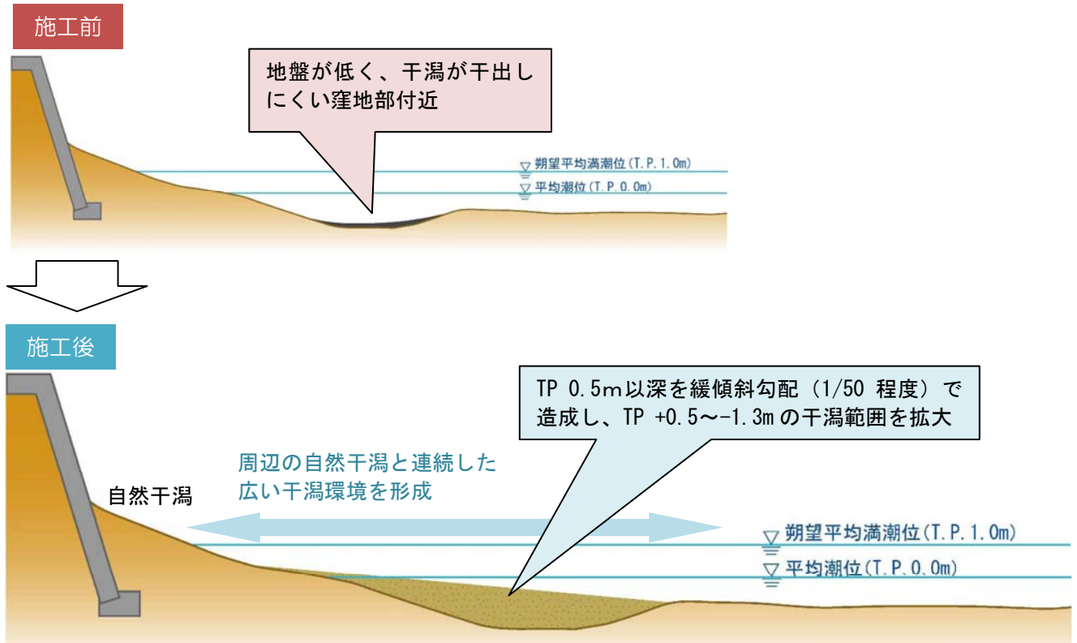
図- ヨシ原再生の事業箇所

２．施工計画

（1）干潟区

◆施工の考え方

- 干潟施工は、地盤が低く、干潟が干出しにくい窪地部付近に土砂を投入し、良好な干潟環境を再生する。
- 干潟の施工形状は、TP 0.5m以深を緩傾斜勾配（1/50 程度）※で造成し、TP +0.5～-1.3m の干潟範囲を拡大する。※自然干潟の勾配より設定



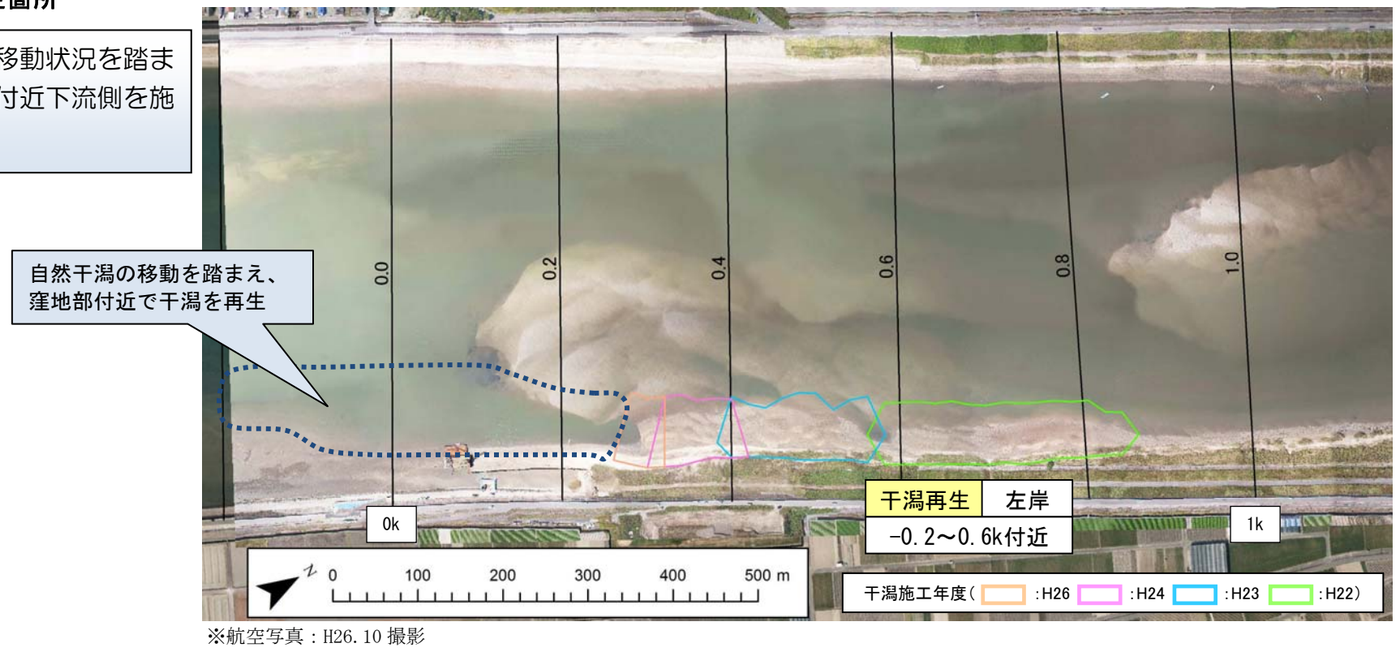
◆配慮・留意事項

- 自然干潟は、日々の潮汐や出水等により地形変動を繰り返しながら、下流側へ移動している。施工時には、自然干潟の分布状況を踏まえ、平面位置を設定する。
- 自然干潟は、シギ・チドリ類の採餌・休息場等として機能しているため、T.P 0.5m より低い地盤に自然干潟が形成されている場合は無理に施工せず、自然干潟と連続した環境となるように施工する。
- 下流端は、なだらかに擦りつけ、土砂流出を抑制する。

※河口部の２地区については、別途施工方法を検討していく必要がある

◆次期施工予定箇所

- 自然干潟の移動状況を踏まえ、0.2k 付近下流側を施工予定。



※航空写真：H26.10 撮影

0.2k 下流付近：窪地を形成、周辺には自然干潟が分布

２．施工計画

(2) ヨシ原区

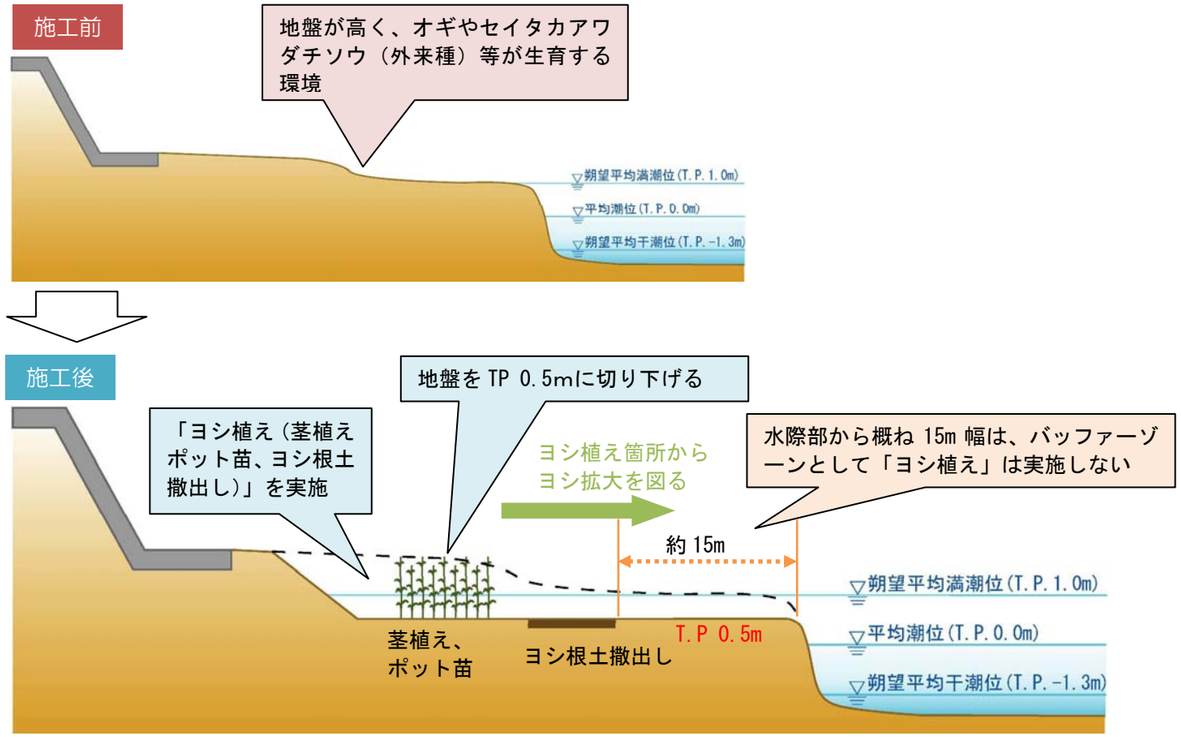
◆施工の考え方

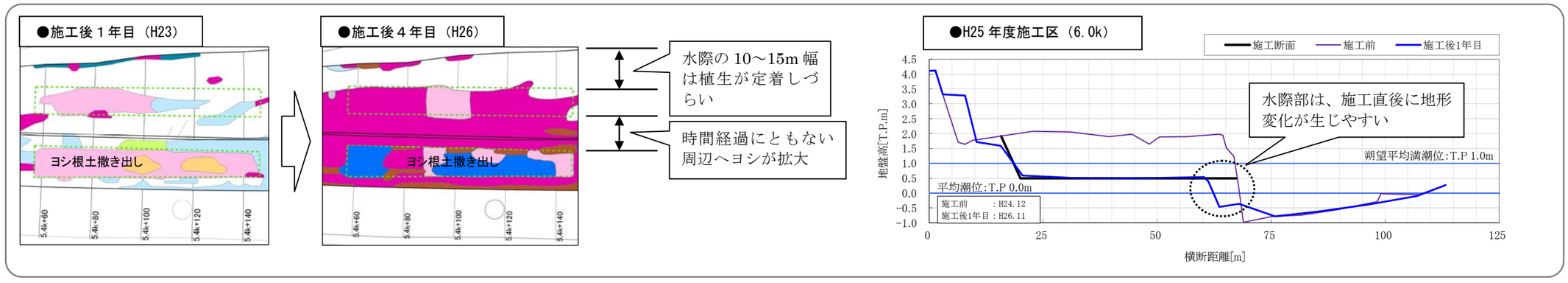
・ヨシ原施工は、地盤が高く、オギやセイタカアワダチソウ（外来種）等が生育する地盤（砂州）を切り下げ、ヨシが生育する良好な水際環境を再生する。
・ヨシ原の施工形状は、地盤を TP 0.5mに切り下げる。
切り下げた地盤で、「ヨシ植え（茎植えポット苗、ヨシ根土撒出し）※」を実施する。

◆配慮・留意事項

（※ヨシ植え実施の考え方）
①ヨシが水際部に一部現存しており、地盤を切り下げた際、ヨシ根茎が残る場合には、そこから早期にヨシ回復・拡大が期待される。そのため「ヨシ植え」は実施しない。

②水際部にヨシがみられない場合には、ヨシの早期回復（定着）を図るため、切り下げた地盤において「ヨシ植え（茎植えポット苗、ヨシ根土撒出し）」を実施する。
※ただし水際部から概ね 15m 幅は、地形変化が生じやすく植生自体が定着しづらい場合があるため、緩衝帯（バッファーゾーン）として位置づける。
→「ヨシ植え」は実施せず（切り下げのみ）、ヨシ植え箇所からの拡大を図る。



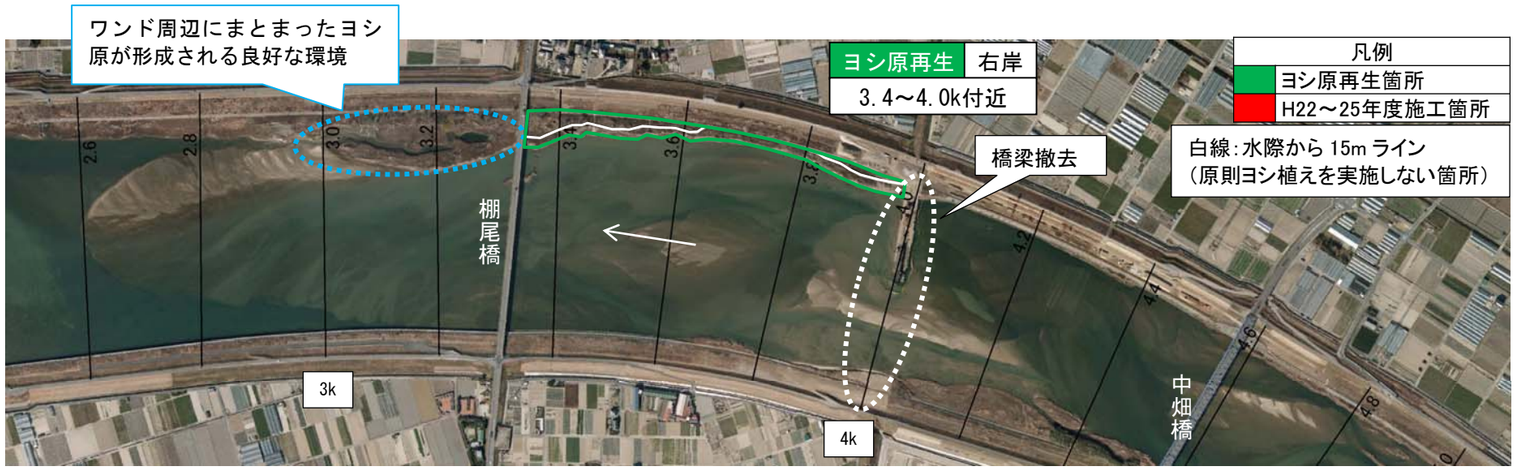


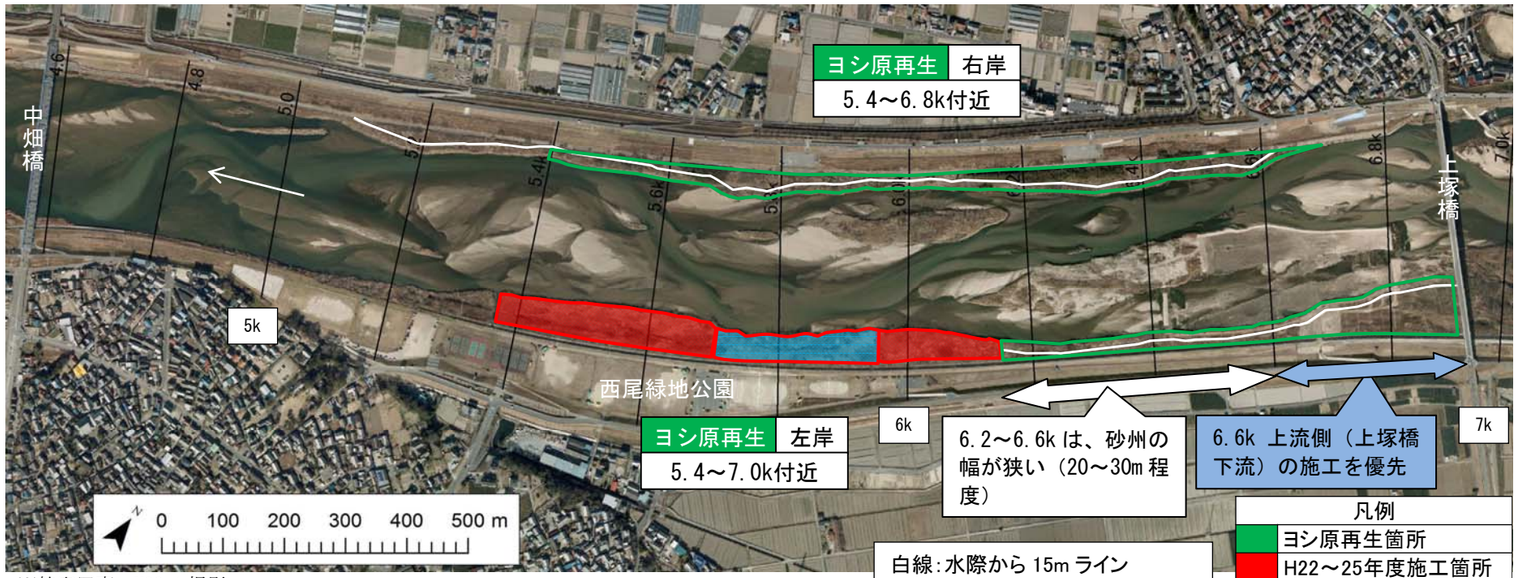
2．施工計画

◆次期施工予定箇所

- 6.2～6.6k 付近左岸は、砂州の幅が狭く、「ヨシ植え」範囲が小さくなる。
  次期施工は、その上流側である 6.6k 付近上流側を優先し、早期にヨシ面積の拡大を図る。
- 左岸 6.6k 付近施工後は、右岸側の施工を予定する。

※3.4k 付近右岸は、下流側にまとまったヨシ原が形成されており、施工により連続したより大きなヨシ原が形成される。
ただし当該箇所は、水衝部であり、また橋梁撤去後の影響の可能性もあるため、今後の推移をみたうえで判断していく。





※航空写真：H22.1 撮影

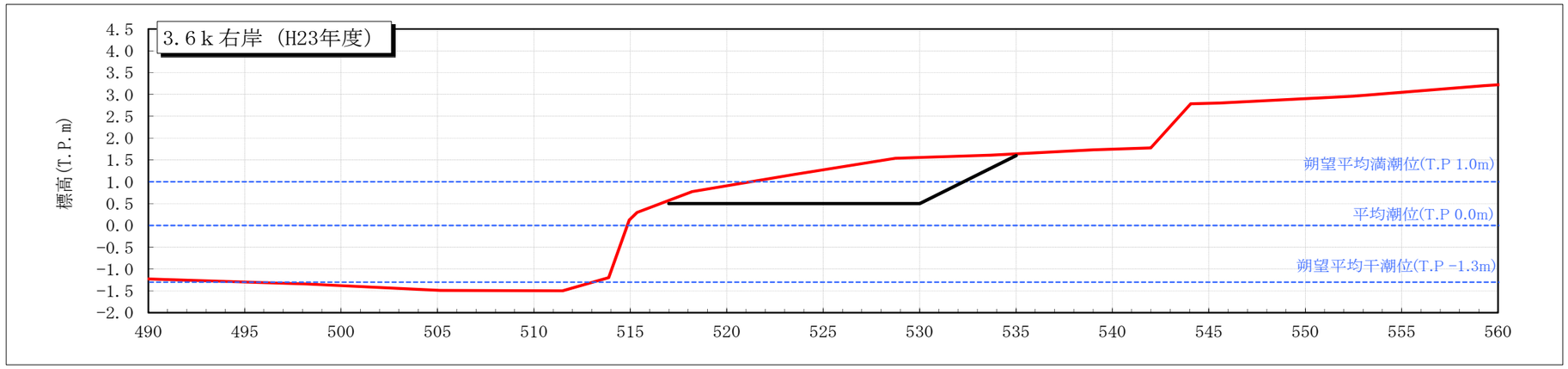
セイタカアワダチソウ等が生育、水際部ではヨシがわずかに生育

オギやセイタカアワダチソウ等が生育、H26 年度に樹木伐採を実施している

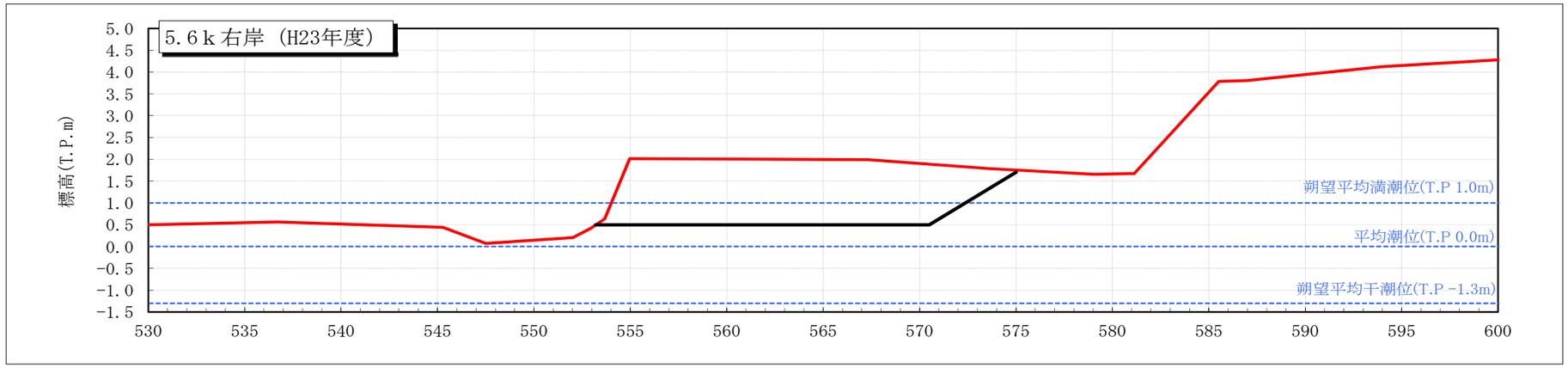
ヤナギ低木やオギ、セイタカアワダチソウ等が生育。水際部ではヨシがわずかに生育

２．施工計画

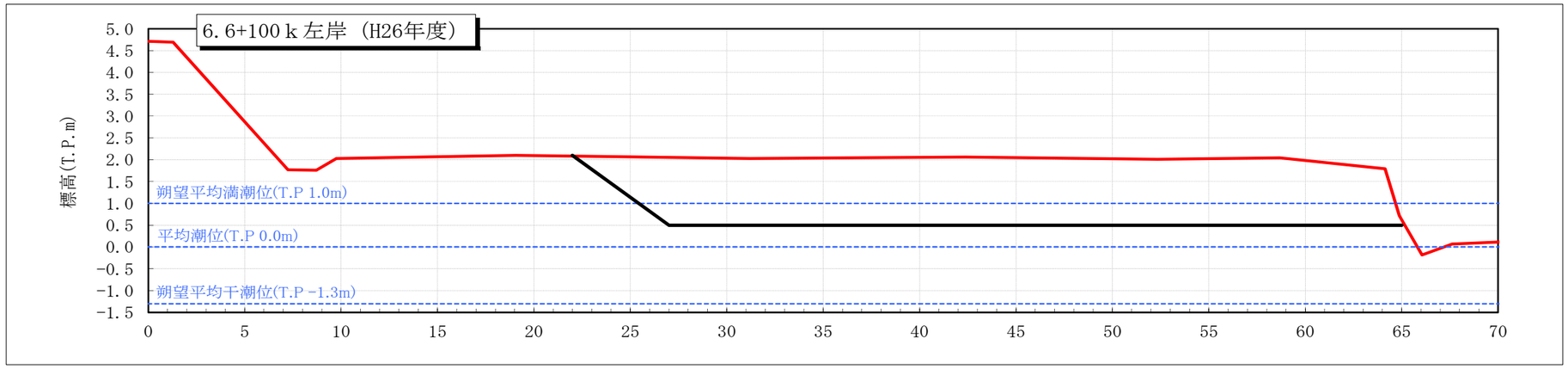
【各施工区の横断形状（整備イメージ図）】　※3.6k、5.6k は H23 年定期横断測量成果、6.6+100m は H26 年度測量成果より作成



砂州の地盤高は T.P 0.5m～2.0m 程度で緩傾斜形状。
地盤が高い堤防側には、セイタカアワダチソウ等が生育しており、水際部ではヨシがわずかに生育する。



砂州の地盤高は T.P 2.0m 程度で概ねフラットな形状。
地盤が高く、オギやセイタカアワダチソウ等が生育している。



砂州の地盤高は T.P 2.0m 程度で概ねフラットな形状。
地盤が高く、ヤナギ低木やオギ、セイタカアワダチソウ等が生育。
水際部の一部では、ヨシがわずかに生育。